

2013
第2号

若者がつくる広報ニューしすい

YOUNG EYES



明日にはばたく
- THE PERSON TO RUNS -

～30日開催
映画『酒の井伝説』展

サンドーガ
代表 渡辺 毅さん
Takeshi Watanabe

6月4日からアウトレット内のコミュニケーションセンターで放送されている、映画『酒の井伝説』皆さんはご覧になったでしょうか。そのプロデュースを務められた当町出身で、『サンドーガ』の代表、渡辺さんに私達ヤングアイズ編集委員がいくつかの質問をぶつけてみました。

記者 この映画は、酒々井の町名の由来となった民話を映像化したものですが、作られたきっかけは何だったんですか？

渡辺 『サンドーガ』は、会社組織ではなく、映画や番組制作に携わる技術を持った若手が集まって個々のスキルアップを目指す中で映画を自主制作している集団なんです。以前から、私が育った酒々井に伝わる酒の井伝説を映画化したかったというのが、一番大きな動機ですかね。

記者 ふだん仕事をされながらこういった活動を続けるモチベーションを保てるのはどうしてですか？

渡辺 仕事から帰ってきて趣味のジョギングや筋トレをしてそれから制作に入り、床につくのが毎晩夜中の2時～3時というような生活

です。(記者仰天...) 好きなことをするという意味では趣味は大事だと思います。**記者** 撮影や制作にあたっての苦労などは？

渡辺 自主制作は90%が失敗すると言われる中で、やはりスケジュールの調整や、もろもろの心配は大変でした。しかし、一番は人からの信用を得ることが最も大事なことだと思っています。**記者** 最後に、酒々井町の若者にメッセージをお願いします。

渡辺 今、自分に出来るベストを尽くす。それが大事だと思います。自分はこの積み重ねで、好きな事を続けてきたその1ページとして今回この映画が撮れました。その好きな活動を通して少しでも町や社会に貢献できたらいなと思います。



取材中の渡辺さんは終始熱く映画制作について語られていました。いろいろな事に葛藤しながらも強く自分の意思を貫こうとする姿に私達も勇気をもらい、とても元気をいただけただけ取材でした。映画『酒の井伝説』ぜひ、コミュニケーションセンターへ足を運んでご覧ください。

編集委員の徒然

編集委員 高島

現役の順大女子サッカー部員です。私たちに、部活動のストレッツは欠かせません。次号で紹介したいと思います！

編集委員 小野

今回は、カメラ隊長として後輩達が躍動した裸まつりの写真を担当しました。みんなイキイキという顔を撮っていたから撮りたえ抜群つり最高！

編集委員 沼澤

私は以前から福祉社会に興味があり、実際の現場を目にしたく、障がいのある方々が缶圧縮機で作業訓練を行っている「ワーク・かなえ」を訪ねました。写真は事業管理者の栗田さん。

編集委員 中台

アウトドア派の中台です！休日になると、お弁当とレジャーシートを持参して子どもと公園に出掛けます。公園には様々な遊具があり大人も一緒に楽しむことができますよ！

編集委員 高田

私は通勤時、写真の自転車を愛用していますが、自転車の交通ルールは徹底されておらず危険を感じることも！交通安全に注意し、快適なサイクリングライフを楽しみたいものです。

編集委員 大島

ものづくりと料理が好きなOLです。梅のおいしい時期がやってきたので、自家製梅シロップづくりを楽しみました。梅は健康にもいいですよ！

編集委員 中台

アウトドア派の中台です！休日になると、お弁当とレジャーシートを持参して子どもと公園に出掛けます。公園には様々な遊具があり大人も一緒に楽しむことができますよ！

編集後記



今年も暑い夏がやってきましたね。毎年暑い夏ですが、バテずに元気に毎日を過ごしたいものです。さて、今回のヤングアイズ第2号はいかがでしたか？みなさんに少しでもホットな話題をお伝えできればと編集委員一同記事作成や編集作業に勤しんでまいりました！一人でも多くの方にヤングアイズ、なかなか面白いじゃない？！と感じていただけたら幸いです。次、みなさんにお会いできるのは、きっと来年の冬。次回号まで、みなさん体には充分気をつけてお過ごし下さいね。最後までお読み頂きありがとうございます！



今年も魅せてくれた！順大裸まつり！！



梅雨入りして早々の6月。今年も町の人気行事でもある順天堂大学の裸まつりで、寮生達が彼等にしかできない熱いパフォーマンスで町民を魅了してくれました！そんな白熱した裸まつりの長を務めた熱いイケメン団長達に、ヤングアイズ編集委員が突撃インタビューに行ってきました！裸まつり開催の数日前のインタビューをお伝えします。



北寮 押田 竜馬
まずは、北寮。今年団長を務めたのが東京都出身の押田竜馬さん。大学ではライフセービング部に所属。『今回の裸まつりにおいては結果だけではない、皆で楽しんで皆で作る祭りにしたい』と団長らしい答えが返ってきました。その裏で『皆を同じ方向に向かわせることに力を注ぎ常に笑顔でいられるように頑張った』と、彼なりの団長としての責務を全うしようという様子も伺えました。ここ、酒々井に来てからはのどかで星が見えるところがいい。皆あたたかくて雰囲気やわらかい。と押田さんなりに感じた酒々井町についても語ってくれました。

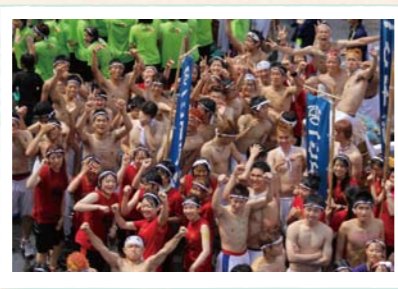


東寮 高鷹 達
続いては、東寮から九州熊本県出身、高鷹達さん。大学ではスポーツマネジメント科を専攻。部活では野球部に所属しているとのこと。将来は教師になりたいという一面もあり、酒々井は勉強、部活などに集中できる良い場所だと話してくれました。団長として皆を引っ張り、リーダーシップをとれる九州男兒らしい姿が見えました。今回の裸まつりに関しては、『学生全員が楽しめるような祭りにしたい。酒々井の皆さんにも自分達の元気を感ずってもらえるように頑張りたいと思います！』と最後まで男らしくパワフルに取材に応じてくれました。



南寮 西川 稜仁
最後は、南寮から神奈川県出身の西川稜仁さん。高鷹さんと同じくスポーツマネジメント科を専攻し、野球部に所属。将来の夢はプロ野球の経営に携わることだと話してくれました。高校時代から子ども達との交流や、老人ホームでボランティアを経験するなど、地域活動にも積極的に参加していたそうです。裸まつりについては、『地域へ僕達が入り込んでいく入学式のようなものだと思うています。これを通して酒々井町の一員になっていきたいです！』と彼の周囲とのコミュニケーションが垣間みえるコメントをくれました。

↓我がヤングアイズのカメラマン、小野さん。彼が撮影した写真を眺めてるだけで寮生達の熱気が伝わってきます！！



裸まつりでカメラを手にして…

photo by 編集委員 小野

今年は、ここ10年で1番天気が良く、新しく酒々井へ越してきた学生が多く地域の皆さんに歓迎されていました。僕はこの日、約1500枚近くカメラのシャッターを押しました！写真は臨場感と空気感を表現するのにこだわって撮りました。伝われば嬉しいです。



広報ニューしすい Young Eyes 第2号



読者のみなさんへ。
もう7月に突入しましたね。いよいよ夏本番といったかんじですね。さて、このたびYoung Eyes 第2号を7月15日に発行し、みなさんのお手元にお届けすることになりました。今回は4月初旬にオープンした酒々井プレミアム・アウトレットにまつわる特集や、大学の裸まつりの模様などをお送りします！一体、このYoung Eyesをどれだけの人が見てくれるのでしょうか。少なくとも10人。いや、せめて50。いや、そんなもんじゃ終わらなまらない。少しでも多くの方々に楽しんでいただけるように編集委員一同、これからはYoung Eyes 第2号、最後まじゅくりとお楽しみください。

酒々井プレミアム・アウトレット



↑夜のアウトレットの明かりになんだかうっとり…

4月19日。酒々井プレミアム・アウトレットがオープンしましたね。既に3ヶ月近くがたった今、もう足を運んだ方も多いかと思えます。いつもはそんなに混んでいなかった道路が休日、平日も車の列が連なる連なる。！地元の方々にとってはなんだこの渋滞は！と思っただ方も多いかもしれませんが、反面、私達が住む酒々井町がテレビに映っていたり、他の地域からたくさんの方々が足を運んで町にきてくれたりと、なんだか少しばかり嬉しい気がします。アウトレットのフードコート内にあるコミュニケーションセンターには行かれましたか？あのスペースには酒々井の案内や魅力が凝縮されていて、たくさんの方が足を運んでいたので見かけました。酒々井インターチェンジも開通した今、町外から来られた多くの方々に酒々井の魅力をもっといばい知ってもらいたいと思う今日この頃です。

↓コミュニケーションセンター内で終始大人気だった井戸子(すいちちゃん)。



アウトレットからすぐ！おだやかな気分を過ごせる『しすい・ハーブガーデン』へお散歩



入ってすぐのエントランス。この左手には喫茶がありますよ！



アウトレットから車を走らせる事ほんの数分。1800㎡の敷地に、世界各地150種類以上のハーブを植栽した本格的なハーブガーデンがあります。春から秋にかけて、それぞれの

季節のハーブが爽やかな風に揺られていて風向きが変わる度に、様々な香りが漂います。ガーデン内には、ハーブ苗、ハーブティ、ハーブクッキーなどのハーブ関連商品が販売されています。



サルビア・シュネーフューゲル。白く咲いたお花が可愛らしいです。



←喫茶で頂いたレモンを使ったハーブティ。香りを楽しみながらゆっくりと、おだやかな時間を過ごしました。
お茶の前に咲いていた一輪のバラ。やっぱり見とれてしまいます…。
このしすいハーブガーデンを知り訪れる方も多く、たくさんの方が集まるアウトレットでのショッピングの後に、すぐ近くにあるしすいハーブガーデンで鮮やかな色とりどりのハーブに癒され、ハーブティを飲みながら一息つく方が多いようです。地元の方々は既にご存知の場所でもなかなか足を運ぶ機会が少ないかと思えますが、季節によってまた違う世界が見えるので気分転換に足を運んでみるのもいいと思います。